

極秘

1175

一九三三年五月十日

リットン報告書ニ關シ聯盟ニ提出セラレタル  
日本ノ意見書ニ對スル支那ノ辯駁書

(支那代表ヨリ國際聯盟理事會及總會ニ發表セルモノ)

在南京中華民國外交部情報局發行  
宣傳パンフレット

朝鮮總督官房外事課 譯

435

0435

朝鮮總督府

1175

シ來ツタノテアル

滿洲國承認議定書第二條ハ日韓議定書第三條ニ規定シタ「日本ハ韓國ノ政治的獨立並ニ領土的保全ヲ保證スル」ト云フ趣旨ト同一テアツテ結局滿洲カ朝鮮同様日本ニ併合サルル日モ遠クナイ事テアラウ

朝鮮總督府

434

0434

序 言

朝鮮總督府

一九三一年（昭和六年）十一月二十一日日本政府ハ國際聯盟理事會ニ對シ日支紛争ノ現地ニ調査委員派遣方ヲ提議シタ仍テ理事會ハ慎重審議ノ上同年十二月十日リットン卿外四名ヲ調査委員ニ推選シ之カ決定ヲ見タ。「リットン」卿一行ハ調査ヲ了ヘ理事會ヘ報告書ヲ提出シタカ同報告書ハ一九三二年（昭和七年）十月一日日支兩國政府並ニ各聯盟國政府ヘ送達サレ日本政府ハ之ニ對シテ其ノ後直ニ理事會ヘ意見書書ヲ提出シタノテアル

同年十一月二十一日、二十三日、二十四日ノ理事會ニ於テ支那代表ハ「リットン」報告書ニ對スル支那政府ノ意見ヲ述ヘ且日本ノ意見書並ニ日本代表ノ主張ヲ辯駁シ後日又機ヲ得テ口頭又ハ書面ヲ以テ支那政

朝鮮總督府

府ノ意見ヲ委曲開陳スヘキ權利ヲ保留シタ

今茲ニ支那代表カ理事會ニ於テ爲シタル演說並ニ其ノ後發表セル支那政府ノ意見書ヲ紹介ス

一 支那及日本ノ國情

理事會ニ於ケル日本代表ノ演說及日本政府ノ意見書ニハ支那ハ混沌タル國テアルカラ之ニ普通ノ聯盟規約ヲ適用スルノハ不常テアツテ寧ロ日本ノ自由ノ行動ハ當然テアリ何等國際條約ニ違反スルモノテハナイト主張シテ居ルカスノ如キ言辭ハ支那ヲ譏スルモ甚タシイモノテアツテ之レハ恰モ歐米各國ヲ紹介スル時ニ其ノ國々ノ警察當局カ集メテ犯罪及暴動ノ記録ノミニ基イテ作ツタ宣傳「パンフレット」ヲ配布スルノト同シコトアル

十一月二十一日ノ理事會テ支那代表ハ左ノ如キ演說ヲ爲シタ

「目下支那ハ四千年ノ老大帝國ヨリ一躍近代的國家ニ移リ爰ラウトンテ無數ノ艱難辛苦ヲ嘗メテ居ルノテアルカラ多少國內ノ秩序カ亂レテ不安ヲ感スルカモシレナイカコレハ改造ノ過程ニアル現象デアツテ古イ家屋ノ改築ト同シ様ニ一時ノ不快ヲ受ケハヤカテ完成ノ喜ヲ感スルニ至ルデアラウ 考ヘ様ニ依ツテハ現在ノ動搖ト不安トハ覺醜シツツアル四億五千萬民衆ノ活力ト氣概トノ表レトモ解釋出來ルノテアル

リットン報告書ニモ此ノ支那ノ進歩ヲ稱讚シテ居ルテハナイカ」

日本代表ハ「リットン報告書」ヲ辯駁シテ飽迄支那ヲ惡評スルカラ「ヴァ」大統領ノ僚友デアリ國際救濟事業ノ巨星テアル「デヴィドブラウン」博士ハ支那ノ各地ヲ訪問セル後上海「アメリカンユニヴァシテークラブ」テ一場ノ演説ヲ試ミテ曰ク「余ハ飛行機ト自動車

438 ( 0438

テ四千哩ヲ旅行シ發越、山西、陝西、甘肅及河南ヲ踏破シタカ然シ少シモ不安ノ状態ヲ見ナカツタ到ル處秩序整然トシテ國民ハ一致團結中央ニ服從シテ居ル他地方ニハ或ハ秩序カ亂レテ居ル所カアルカモ知レヌカ兎ニ角支那ハ大國デアツテ政府ノ基礎ハ未ダ鞏固テナイカラ之ニ完全無缺ノ統一トカ統治ノ完璧トカヲ要求スルノハ無理デアル假リニ他ノ一等國政府ニ支那ノ統治ヲ委任シテモ南京政府以上ノ治績ヲ舉ケルコトハ出來ナイデアラウ

駐支日本公使有吉氏モ上海ノ日本人記者團ニ向ヒ「今後支那ノ内亂カ擴大シ國ハ四分五裂ノ悲運ニ陥ルデアラウト杞憂スル者カアルカモシレヌカ目下蔣介石ハ共匪討伐ニ全力ヲ傾注シ且南京政府部内ハ一致團結シテ居ルカラ蔣介石モ南京政府モ滅多ニ倒レナイデアラウト言明シタ

439 ( 0439

一證日本ノ代辯者ハ外務省ト陸軍省ノ二重外交ヲソノママ曝露シ國際會議ノ檜舞台ニ立ツテ四面楚歌ノ中ニ愈々形勢不利ト見レハ自分ニ都合ノヨイ二枚舌ヲ弄スルノカ常テアル

中華民國ノ革命以來二十年間日本ハ絶エズ支那ノ叛亂ヲ煽動補助シ治安ヲ擾亂シテ來タ證據ハ歴然タルモノカアル茲ニ客年十一月二十一日ノ選舉會ニ於ケル支那代表ノ演說ヲ紹介シヤウ

「日本ハ類リニ支那ニ統一的政府ナシト批難スルカ日本コソ支那ノ統一ヲ妨害スル政策ニ出テ居ル一證日本ハ本當ニ支那カ統一サレレハ目已ノ大陸政策並ニ世界征服ノ空想ニ大打撃ヲ受ケルテアラウト危惧ノ念ヲ懷イテ居ルニ違ヒナイ「リットン」報告書モ「近代的支那ノ政治的發展並ニ將來ノ計畫ハ日本ノ最も懸念スル中心問題テアル」ト述ヘテ居ル

440 ( 0440

日本代表ハ支那ヲ以テ世界平和ノ脅威テアルト論難スルカ日本コソ世界平和ノ擾亂者テアル

十一月二十一日ノ選舉會テ支那代表カ說明シタ通り日本軍ハ二經路ヲ採ツテ支那ヲ征服セントシテ居ル即チ朝鮮經由テ滿洲及北支ヲ攻略スル方策ト臺灣ヲ根據地トシテ中支、南支及南洋群島ヲ侵略スル方策トテアル日本ノ野心ハ前首相田中大將ノ上奏文ヲ見テモ判斷出來ルノテアル

今次ノ上海、天津、滿洲事變ハ全部右ノ上奏文ニ述ヘラレタ所ヲ實行シタニ過キナイノミナラス問題ノ上奏文ハ今日日本國內ニ於ケル恐怖政治ノ根底トナリ財政ノ困難、民心ノ不安ヲ誘發シテ居ル

今日本全國軍閥巨頭ノ掌中ニアル、日本ノ陸海軍各大臣、參謀總長軍令部長ハ憲法上天皇ニ直接上奏スル權限ヲ與ヘラレテ居ルカラ總

441 ( 0441

趙大臣又ハ帝國議會ニ責任ヲ問ハレルコトナク自由ニ内閣ヲ左右スル實權ヲ持ツテ居リ總テノ文官又ハ自由主義者ハ生命カ惜シイ爲軍閥ノ前ニ叩頭スル外ナク  
斯クテ僅カ九ヶ月間ニ日本一流ノ政治家四人カ暗殺圖ノ兇又ニ斃レタノテアルカ然シ今日迄例ノ暗殺者ニ關スル裁判トカ判決ヲ吾人ハ聞イタコトカナク

日本ハ滿洲天津上海華僑ノ結果世界的不況ニ基ク財政難ヲ一層深刻ナラシメ其ノ貿易額ハ激減シ圓價ハ平價ノ六割モ暴落シ對支軍費ハ激増セルニモ拘ラス財源捻出ノ途ナク昭和七年度歳入豫算ニ八九億圓ノ赤字即チ總歳出豫算額ノ四割ノ不足ヲ見之ハ辛クモ内債ヲ彌補スルヲ得タノテアル之ニ反シテ支那財政ノ鞏固ナルコトハ在上海「アメリカンユニヴァシティ」ニ於ケルデヴィド、ブラウン氏ノ演

朝鮮總督府

442 0442

説ヲ聞イテモ證明カ出來ル

「現今世界各國ハ全部歳入不足テ困ツテ居ル然シ獨リ支那ハ歳入歳出カ均衡ヲ保ツテ政居ル之レハ支那ノ經濟的安定並ニ財政計畫カ其ノ宜シキヲ得タコトヲ雄辯ニ物語ルモノテアル」

支那ノ國家主義及所謂排外主義

昨年十一月二十三日日本代表ハ理事會ニ於テ支那五千萬ノ青少年ハ排外教育ヲ受ケテ居ルト稱シ一九〇〇年義和團事件（團匪事件）迄引用シテ大ニ氣焰ヲ擧ケ又日本ノ意見書ニモ支那政府ノ革命外交並ニ排外教育「ポイコツト」ニ付屢々述ヘテ居ルカ然シ支那ニハ何等排外運動ハナイ 若シ排日運動カアルトスレハ日本カ先ニ支那ヲ侵略シタ結果支那カ其ノ報復手段トシテ日貨排斥ヲ爲シタノテアル

朝鮮總督府

443 0443

義和團事件ニ關シテ述ヘンニハ當時西太后ノ敕諭ニヨリ北京ニ排斥  
運動勃發スルヤ北清地方民モ亦外人ノ清國領土分割ニ憤慨シテ蜂起  
シ朝野相呼應シテノ大騷擾トナツタノテアルカ李鴻章、袁世凱ノ如  
キ見識アル政治家ハ事件ノ擴大ヲ極力防止シ騷擾ノ鎮撫ニ努力シタ  
ノテアツタシカルニ本件議定書テハ全責任ヲ清國政府ニ負担サセテ  
居ルノテアル之ニ對シテ勿論當時一般有識階級並ニ愛國志士ハ偏ニ  
痛嘆シテ已マナカツタノテアル其ノ後歐米列國ハ對支政策ニ根本的  
變更ヲ加ヘタノテ支那人モ愈々安心シテ外人ニ對シ親善ノ態度ヲ示  
スニ至ツタ

元來支那ノ國家主義並ニ革命外交ハ支那カ列強ト肩ヲ並ヘルタメノ  
向上運動デアツテ支那カ斯クノ如ク覺醒シタコトニ付テハ歐米ハ固  
ヨリ日本モ滿腔ノ同情ヲ表シタノテアル即チ一九三一年（昭和六年）

朝鮮總督府

444 0444

一月時ノ外相兼首相幣原氏ハ議會ニ於テ支那ニ於ケル諸問題解決ニ  
ハ日支兩政府ハ共助ト友誼ノ精神ヲ以テ之ニ當ルヘキテアルト述ヘ  
テ居ルカソノ支那ノ諸問題ト云フモノノ内ニハ列強ノ特殊權益ノ回  
收ト云フ事モ含マレテ居ルコトハ勿論デアル然ルニ今日支那政府カ  
外交手段ヲ以テ支那主權ノ侵害ト認メラルル様ナ外國ノ特殊權益ヲ  
回收セント企圖スルノニ日本ハ之ヲ指シテ排外運動ト云フ何ト奇怪  
千萬ナ話テハナイカ

十九世紀中葉徳川幕府カ外國ニ治外法權ヲ認ムル條約ヲ締結シタル  
時ニハ東京ニ暴動カ起リ英國公使館ハ襲撃サレ外人カ多數殺傷セラ  
レタカ其ノ後井上馨氏カ治外法權ノ撤廢ヲ交渉シタ時モ又日本人ノ  
示威運動カアツテ多數ノ外人カ暴行ヲ加ヘラレタ

次ニ大隈伯カ交渉ヲ爲セル時ハ栗島事件勃發シ日本人ノ排外熱ハ絶

朝鮮總督府

445 0445

頂ニ違シ伯ハ右脚ニ燦彈ヲ投セラレタノテアツタ  
 又排外教育ニシテモ日本自身カ熱心ニ行ツテ居ル 日本文部省編纂  
 尋常小學校日本歴史教科書第二卷第二課ニ「我々ハ誓ツテ外國ノ排  
 斥ヲヤリマセウ」ト云フ文句アリ又文部省編纂小學校用國史第四十  
 七課ニハ外國排斥ト題シ「此ノ時西洋諸國ハ急ニ極東へ勢力範圍ヲ  
 擴張シ頻リニ我國ヲ苦シメタ 我國ハ露西亞ト通商關係ヲ結フ事ヲ  
 拒絶シタ威カ露西亞ハ樺太ト千島ニ攻メ入ツタ又英國船ハ長崎ヲ恐  
 嚇ラシタノテ我國人ハ怒ツテ外國排斥ヲ決心シ幕府ハ外國ノ海賊船  
 攻撃ヲ命シタ」ト誓イテアル  
 又日本中學校歴史教科書（文部省檢定三省堂發行）第三十二章ニハ  
 「英國船等ハ度々日本ノ海岸ヲ巡航シタカ其ノ中一隻ハ急ニ長崎ニ  
 攻込シテ我國法ヲ破リ非常ナ野蠻的行爲ヲ爲シタ

朝鮮總督府

446 0446

我國人ハ之ヲ見テ大イニ怒リ英國人ニモ露西亞人ニモ反感ヲ持ツニ  
 至リ遂ニ外國ノ排斥ヲ決心シタ」又同第三十四章ニハ「米國ハ兵力  
 ヲ背景ニシテ我國ニ對シ不平等條約ニ關印ヤンコトヲ強要シタ」ト  
 誓イテアル  
 「リットン」報告書ニハ「支那ノ國家主義ハ目下政治的過渡期ニア  
 ル同國トシテハ當然ノ現象デアツテ斯ノ如キ愛國心ハ同シ境遇ニア  
 世界何レノ國ニモ有リ勝ノコトデアアル」ト述ヘテ居ル  
 日本ハ自己ノ辛イ經驗ニ鑑ミ大ニ支那ニ同情スヘキ筈デアアルニ不拘  
 反ツテ支那ノ惡宣傳ヲ導トシテ列強ノ對支輿論ニ惡影響ヲ及ボシテ  
 居ル  
 次ハ日貨排斥問題デアルカ之ハ全ク日本ノ侵略ニ於ケル支那人排斥  
 事件及滿洲ニ於ケル日本軍舉行動ヲ見テ支那ノ輿論ハ激昂シタニモ

朝鮮總督府

447 0447

拘ラス支那政府ハ支那ニ於ケル日本人ノ生命財産ヲ極力保護シ事ナ  
キヲ得タ

抑々朝鮮事件（平壤事件）ノ場合ニハ日本官憲カ警戒ヲ怠ツタ責任  
アリ又滿洲舉變ハ專ラ日本ノ侵略政策ニ由ルモノテ之カ爲支那人ノ  
生命財産ノ損害ハ莫大ナルモノテアツテ支那ニ於ケル日本人ノ被害  
額トハ比較ニモナラナイノテアル

兎ニ角「ボイコット」ハ日本ニ責任カアルノテアツテ日本カ侵略的  
野心ヲ棄テレハ支那ハ「ボイコット」ヲ即時中止スルテアラウ

支那ノ東三省（滿洲）

滿洲ハ支那ニ於テハ東三省ト呼ハレ歴史的、人種的、文化的乃至政  
治的何レノ方面ヨリ見テモ支那トハ不可分ノ領土テアル然ルニ日本  
政府ノ意見替並ニ日本代表ノ演説ハ之ノ巖然タル事實ニ對シ疑惑ノ

448 0448

眼ヲ向ケテ居ル

中華民國建國以前ヨリ東三省ハ他ノ支那十八省ト同様ニ統治サレ一  
九一二年（明治四十五年）二月十二日宣統帝ノ退位詔勅ニモ中華民  
國ノ領土ハ大清帝國ノ領土ヨリ成リ滿族、漢族、蒙古族、回々教族  
及西藏族ノ五大民族ヲ以テ大同團結シ以テ大中華共和國ヲ建設スト  
明記サレテ居リ又中華民國臨時憲法第三條ニモ中華民國ノ領土ハ二  
十二省ヨリ成ルト規定シテアル 降ツテ一九二三年（大正十二年）  
十月十日及一九三一年（昭和六年）六月一日發布ノ憲法ニモ同様ノ  
條文カアル 日本政府意見替ニハ滿洲カ支那ニ統一サレタノハ臨時  
的且偶然的テアツテ斯ノ如キ統一ハ不定且曖昧ナリト誓イテアルカ  
一九二二年（大正十一年）五月張作霖ハ徐世昌トノ間ニ問題ヲ起シ  
タ時左ノ如キ宣言書ヲ發表シタ「中華民國大總統徐世昌氏ヨリ余ニ

449 0449



送致セル書簡ニ依レハ徐氏ハ東三省、熱河、察哈爾特別區域及内外蒙古ヲ無視シテ居ル斯ノ如キ態度ハ右各地方カ中華民國領土タルコトヲ承認シナイモノテアル」  
仍テ當時張作霖カ毅然立ツテ中央ト一戦ヲ試ミタノハ專ラ右宣言ノ精神ニヨリ東三省ト中央トノ一體ナルコトヲ天下ニ證明センカ爲テアツタ

「リットン」報告書ニモ「時々張作霖ハ獨立ヲ宣言シタカ其レハ決シテ滿洲人ノ獨立希望ノ意思表示テハナイ滿洲ト中央トノ干戈ヲ交ヘタ時ニモ滿洲ノ獨立期間ニモ事實上滿洲ハ支那ノ不可分の領土トシテ變リハナカツタ」

國際的ニモ滿洲カ支那ノ領土テアルト云フコトニハ疑問カナイ  
中華民國建設以前ヨリ日本竝ニ列國ハ外交文書ヲ以テ之ヲ承認シテ

朝鮮總督府

來タ若シ滿洲カ支那ノ領土テナケレハ何故日本ハ一九一五年（大正四年）支那國へ最後ノ通牒ヲ發シテ日本ノ滿洲ニ於ケル特殊權益ノ確認ヲ強要シタカ例ノ華盛頓ニ於ケル九ヶ國條約ノ調印ノ時ニモ日本ハ一言ノ抗議モヤス唯々トシテ支那全領土ノ保全並ニ政治的獨立ヲ確保スヘキコトヲ誓ツタテハナイカ今ニ至ツテ否認スルトハ何事テアルカ 前外相幣原氏ハ一九三一年（昭和六年）十月滿洲問題解決ノ交渉ヲ支那南京政府へ申込シタノハ如何ナル理由テアルカ  
「リットン」報告書ニモ「支那人ハ滿洲ヲ支那ノ不可分の領土ト思ヒ之ヲ支那ヨリ分離サセントスル計畫ヲ快カラヌ思ツテ居ル  
從來東三省ハ支那竝ニ諸外國共ニ之ヲ支那ノ一部ト認メ滿洲ニ於ケル支那政府ノ統治權ハ確認セラレテ居タ其レハ多クノ日支條約、協定、其他國際條約、並ニ日本及列國ノ外務省カ公表セル聲明書ヲ見

朝鮮總督府

テモ一點ノ疑問カナイ處テアル  
 日本ノ意見書ハ巧ミニ滿洲ニ於ケル舊支那政權ノ弱點ノミヲ摘發シ  
 テ非難攻撃ヲ加ヘテ居ルカ實際滿洲ニ於ケル支那政府ノ統治ノ偉績  
 ハ全世界ノ認ムル所テアツテ「リットン」報告書ニモ「一九三一年  
 (昭和六年)九月ノ事變以前ニ於ケル舊政權ニハ批難サルヘキ點カ  
 ナイテモナイカ同政權下ニ教育、産業、地方行政等各般ノ制度ハ長  
 足ノ進歩ヲナシ特ニ張作霖及張學良ノ統治下ニ於ケル滿洲ノ經濟的  
 發展ハ從來ノ記録ヲ破リ支那本部ヨリノ多數ノ移民入滿シテ殖産興  
 業ニ努メ日本ノ資本ニ依ラナイ鐵道カ敷設サレ胡蘆島ノ築港ハ開始  
 サレ遼河ノ大河川工畢起リ産金奨励ニ努メタル結果黒龍江省ヲ始メ  
 其ノ他到ル處ニ探鑛行ハルルニ至リ又老頭溝其他ニ石炭坑モ多ク開  
 カレタ林業方面ヨリ見テモ日本ト合併テ鴨綠江材木公司ヲ設立シテ

朝鮮總督府

452 0452

黒龍江材及吉林材ノ伐採ニ努メ各地ニ農學試驗場ヲ開設シ農會及水  
 利事業計畫モ着々進行シタ又哈爾濱其ノ他各地ニハ大工場カ續々設  
 立サレ紡織、大豆油及製粉業モ旺盛トナリ對支貿易モ激増シ支那各  
 銀行ハ滿洲ニ支店ヲ置イテ貿易ヲ助長シ支那本部ト大連、營口、安  
 東間ニハ支那汽船ジャンク類リニ往來シタト詳細ニ説明シテ居ル  
 又支那參與員ヨリ調査委員ニ提出シタ書類ヲ見レハ「日本カ露西亞  
 ノ建設シタ旅大租借地並ニ滿鐵附屬地ヲ一層近代的ニ發展セシメタ  
 功勞ハ否認出來ナイカ一體旅大及滿鐵附屬地ハ滿洲總面積ノ二百分  
 ノ一ニモ足りナイカラ其ノ發展ヲ以テ直チニ滿洲全體ノ發展ト見ル  
 ノハ早計テアル 茲ニ前奉天駐在英國總領事「エフ、イ、ウイルキ  
 ンソン」氏ノ意見ヲ紹介スル  
 「最近二十五年間ニ於ケル滿洲ノ發展ハ支那人ノ農學改良ニ俟ツ處

朝鮮總督府

453 0453

朝鮮總督府

大テアル勿論之ハ中東鐵道及滿鐵ニ負フ所モ多イカ右鐵道ハ皆露西亞人カ設計シ建設シタモノテアツテ大連モ露人ノ手テ商港トシテ開港シタモノテアル

云ハバ日本人ハ唯露人ノ開始シタ事業ヲ續行シ其レヲ擴張シタニ過キナイ 如何ニ日本カ滿洲ノ對外貿易並ニ對日貿易ヲ助長シタトハ云ヘ自己カ滿洲繁榮ノ創造者テアルカノ如クニ誇稱スルノハ當ヲ得ナイ 滿洲ハ天然ノ地味肥エ天產物豐富テアルカラ逐年貿易額カ増加スルノハ何モ驚クヘキコトテナイ 若シ日本カ特惠關稅率ノ主張ヲ中止シ且日本以外ノ外資ヲモ歡迎シテ鐵道建設並ニ鑛山開發ニ努メルコトヲ許容シタナラハ滿洲ハ一府速カニ發展シタテアラウト

日本ハ滿洲ニ於ケル自己ノ特殊地位ヲ主張スルカ夫レハ亞細亞大陸征服ノ假面デアツテ往年朝鮮併合ノ直前韓廷ヲ籠絡シタノト同一筆

朝鮮總督府

法テアル

若シ他國ノ領土内ニ入ツテ勝手ニ特殊地域ヲ占メテモ宜シイト云フナラ東洋ハ固ヨリ全世界ノ平和ハ永遠ニ擾亂サレルテアラウ

「リットン」報告書ニモ述ヘテアル「日本ハ日露戰爭後總ユル權ニ乘シテ英米佛露ニ對シ自己ノ滿洲ニ於ケル特殊地位、特殊權益ノ承認ヲ求メ幾分カハ成功シタ然シ列國ノ承認ト云フノハ何等確定的ノモノテハナク又例ノ日露密約、日英同盟條約、石井「ランシング」協約等ハ既ニ破壞セラレ華盛頓會議ノ結果九ヶ國條約ノ調印國ハ支那ノ政治的獨立及領土保全ヲ確認シ門戶開放、機會均等ヲ誓ヒ特殊地位、特殊權益獲得ヲ目的トシテ支那ノ内政ニ干涉スル事ヲ相互ニ差控ヘ様ト約束シタト

日本政府ノ意見書ニハ支那ハ滿洲ニ於ケル日本ノ事業及施設ヲ常ニ

批難攻撃スルモノノ如ク誓イテ居ルカ日本ノ事業ハ政治的策謀ニ依  
 ルモノテアル故支那ノ反感ヲ買フコトハ當然テアル「リットン」報  
 告書ニモアル通り例ノ滿鐵ノ如キモ日本政府カ其ノ株ノ大部分ヲ所  
 有シ會社ヲ支配シテ居ル  
 日本内閣ノ更迭度毎ニ滿鐵ノ首腦部モ必ス更迭シ又政府ハ會社へ警  
 察權、徵稅權、教育權其ノ他廣範圍ニ亘ル行政權ヲ與ヘテ居ル若シ  
 會社ヨリ右ノ權限ヲ剝奪スレハ滿鐵ノ特殊使命ニ背馳スルコトナ  
 ルテアラウ  
 日本ハ支那カ國際條約ヲ蹂躪スルト稱シテ例ノ並行線問題ニ付論議  
 シテ居ルカ「リットン」報告書ニモアル通り一九〇五年（明治三十  
 八年）十一月十二日ノ北京會議ニ於テ支那代表カ日本代表ニ對シ並  
 行線ニ關シテ爲シタ協議ト云フノハ正式ノ條約トシテ締結サレタノ

456 ( 0456

テハナク唯會議ノ議事録ニ記載サレテ居ル丈テアツテコノ事ニ關シ  
 テハ日支兩參與員カラモ調査委員ニ對シ報告シテアルノテアル  
 故ニ並行線ニ關スル限り支那ノ條約違反云々ハ事實無根テアル日本  
 コソ條約違反國テアル何故ナラハ日本ハ條約ニ違反シテ何時迄モ鐵  
 道守備隊ト領事警察官ヲ支那ニ駐屯セシメテ居ルテハナイカ  
 鐵道守備隊ニ關シテハ一九〇五年（明治三十八年）十二月二十二日  
 ノ日露條約附屬地協定第二條ニ「日本帝國政府ハ滿鐵カ鐵道守備隊  
 ヲ撤退シタル場合ニ於テハ直チニ同一ノ行動ヲ取ルコトニ同意ス」  
 ト規定シテ居ルノヲ日本ハ極ニトツテ駐兵權ヲ主張シテ居ルカ露國  
 ハ直チニ撤兵シ一九二四年（大正十三年）露支協定ニ依テ自己ノ駐  
 兵權ヲ完全ニ拋棄シタノニモ拘ラス日本ハ滿洲ノ治安ヲ云々シテ條  
 約上駐兵權ヲ主張シ撤兵ヲ實行シナイ

457 ( 0457

朝鮮總督府

當夜十時ト十時半トノ間鐵道線路或ハ同附近ニ爆發事件カ起ツタノ  
 ハ事實テアルカ假令鐵道ソノ物カ爆破セラレタ處テ長春ヨリ來ル兩行  
 列車ノ安全通過ニハ甚ノ危險カナカツタ仍テ同爆破事件ヲ楮ニシテ  
 日本ノ軍事行動ヲ正當テアルト抗辯スルノハ不穩當テアル要スルニ  
 日本軍ノ行動ハ合法的自衛ノ範圍ヲ離脱セルモノト認ムト誓イテ  
 アル

日本政府ハ滿洲ニ於ケル自己ノ特殊權益保護ノ爲メ自衛上右軍事行  
 動ヲ爲シタト辯解シ「ケロツグーブリアン」條約ノ中ニアル自衛權  
 發動ノ保留條件及「カロリン、ナヴァリノ」事件ノ先例ヲ引證スル  
 カ其ノ保留條件ト云フノハ佛國ノ提案ニ係ルモノテ「各締約國ハ合  
 法的自衛權ヲ保持ス」ト云フ條文カ其レテアル而シ其ノ條約ノ創案  
 者「ケロツグ」氏ハ一九二八年（昭和三年）四月二十九日華盛頓ノ

459 0459

朝鮮總督府

次ハ領事警察官問題チアル日本ハ之ヲ治外法權ノ附帶條件テアルト  
 云フカリツトン報告書ハ之ヲ治外法權國ノ一般慣例ニ悖ツテ居ルト  
 觀テ居ル

九月十八日事變及自衛權問題

日本ハ自己ノ軍事行動ヲ辯護スル爲盛ニ自衛權發動說ヲ唱ヘテ居ル  
 カ其レカ自衛權ノ範圍ヲ逸脱シタ計畫的侵略行爲テアル事ハ「リッ  
 トン」報告書ニ照シテモ明カテアル同報告書ニ「本委員ハ日支兩國  
 參與員ノ提出書類及證據物ヲ入手シ且現地調査ヲ爲シ慎重審査ノ結  
 果日本軍ハ事變前既ニ萬端ノ計畫準備ヲ整ヘ待機中テアツタ處遂ニ  
 九月十八日ノ夜ニ至ツテ精正確且迅速ニ其ノ計畫ヲ執行シタモノテ  
 アル支那軍カ日本軍ヲ攻撃スルトカ日本人ノ生命財産ニ危害ヲ及ホ  
 ストカ言フ計畫ハ固ヨリ支那側ニハナカツタ

458 0458

米國國際法學會ニ於テ「若シ各國カ正當ノ理由テ自衛權ヲ發動セシムルナラハ全世界ハ其ノ行動ヲ稱讚ハシテモ非難ハシナイテアラウ然シ不謹慎ナル嗣々ハ自衛權ヲ濫用シテ惡々事件ヲ捏造スルカラ困ル」ト演説シ又一九二九年一月十四日上院ニ於テ「不戰條約ハ善意且眞實ノ自衛行動ヲ除クノ外總テノ國際紛争解決ヲ戰爭ニ訴ヘナイト云フ事ヲ誓ツタモノテアル」ト演説シタ

又「スチムソン」國務長官ハ一九三二年（昭和七年）八月八日上院ニ於テ「自衛權使用ノ範圍ハ無數ノ前例ニ依テ確定サレテ居ル其レニモ拘ラス自國民保護ノ假裝ノ下ニ帝國主義的政策ヲ掩蔽セントスル國家ハ遠カラヌシテ其ノ正體ヲ曝露スルニ至ルテアラウ」ト演説シタ

日本人ノ中テモ東京帝大横田喜三郎教授ノ如キハ一九三一年（昭和

六年）十月十五日左ノ演説ヲ爲シテ日本ノ自衛權説ニ巨彈ヲ投シタ

「若シ鐵道爆破敵ノ挑發テアルト言フナラハ敵ヲ擊退スレハソレテ自衛權發動ノ目的ハ達スルノテアル百歩ヲ譲ツテ考ヘテモ日本軍ハ最大限度北大營ヲ占領スレハ其レテ満足セネハナラヌ管テアルカ然ルニ北大營占領ト同時ニ海大市迄モ攻撃シタ之カ自衛行爲テアルカソレノミナラス鐵道爆破事件發生六時間内ニ四百「キロメートル」ヲ距ル寬城子ト二百「キロメートル」ヲ距ル營口ヲモ占領シタ如何ニシテ之ヲ以テ自衛權ノ發動ト云ヒ得ルカ若シ出兵カ自衛權ノ發動テアルト云フナラハ最早自衛行動ノ必要カナクナツタ時ニハ當然撤兵セネハナラヌ管テアル

若シ日本カ例ノ爆破事件ト全然關係ノナイ他ノ諸問題ヲ引出シテ口實ヲ作り撤兵ノ交換條件等ヲ強要シテ依然兵ヲ留メルトスレハ如何

朝鮮總督府

ニ自衛權ノ發動ナリト主張シテモ世人ノ注目ト癡惑ヲ惹カヌニハオクマイ」

又カロリン事件ハ當時英軍カ問題ノ汽船ヲ「ナイヤガラ」操布ニ突落シテ即時退却シテ了ツタカ英國政府ニハ米國領土ノ主權侵害ニ對シ陳謝シタノテアル

次ニ「ナヴァリノ」事件ニ付テモ日本ハ希臘人カ「ナヴァリノ」戰役ニ乘シテ土耳其及埃及ヨリノ離脱ヲ目的トシテ獨立運動ヲ起シタト言フカ該獨立運動ハ「ナヴァリノ」戰役ヨリ遠キ以前ノコトデアリソノ論法ハ全ク間違ッテ居ル

滿洲獨立ハ滿洲人ノ民族自決ニ依ルモノテ滿洲事變ハ唯偶然其ノ機會ヲ與ヘタニ過キナイト云フケレトモ日本カ計畫的ニ九月十八日ノ事變ヲ起シテ結局滿洲國ヲ建設シタモノデアルト云フ事ハ一點ノ疑

462 0462

朝鮮總督府

ヲ容レサル嚴然タル事實デアル

五 滿 洲 國

滿洲國カ日本ノ傀儡デアルコトハ屢々上述ノ通りテル

日本ハ滿洲人カ保護安民主義ヲ獨立シタト云フカ日本人ハ保護安民ノ意味ヲモ知ラナイ模様デアル

保護安民ハ「内争ヲ止メテ安寧秩序ヲ守レ」ト云フ支那古來ノ政治的標語デアツテ決シテ獨立ノ意味ヲ有スルモノテハナイ例ノ獨立運動ノ大立物ト云ハレル于沖漢一派モ内心ハ獨立ニ反對デアツタカ唯日本人ニ強迫サレテ不承不承ニモ其ノ傀儡ニナツタノデアラウ

會テ趙欣伯等カ張學良ノ軍閥政治ニ反對シテ改革ヲ計畫シタコトハアル而シ流石ノ趙欣伯テモ滿洲ヲ中華民國ヨリ切離サウトハシナカツタ

463 0463



昨年早春袁金凱カ東京中央公論ノ通信員平野ニ對シ「余ハ時局ノ緊急且重大性ニ鑑ミ遼寧省ノ治安維持ニ努力スルコトヲ余ノ義務ト思フ然シ余ハ東四省ノ聯合トカ薄儀氏ヲ執政ニスルコト等ハ噂ノミ聞イタ丈テ余ノ未知スル所テナイ」ト云ツタ

前遼寧省長臧式毅ハ事變直後日本軍ノ要求ニ反シテ遼寧省ノ獨立宣言ヲ拒絕シタ爲三個月間監禁セラレ新遼寧省政府ノ主席ニ就任スルコトヲ受諾シテカラ漸ク放免サレタ 然シ彼ノ就任挨拶ニハ新國家建設ニ付テ一言モ觸レテ居ナイ即チ臧氏ハ「東三省ハ日支兩國ノ利害關係ノ最モ緊密ナル地方テアル余ハ今後日支親善ノ爲盡力スル決心テアル」ト云ツタニ過キナイ

日本ノ意見書ニハ滿洲ハ事變前ニ於テモ屢々獨立宣言ヲ爲シタト云フカ其ノ宣言ノ目的ハ地方的治安維持ニアリ決シテ中華民國ヨリノ政治的獨立ヲ意味シタモノテナイ

464 0464

九月二十六日多門將軍カ吉林ニ入城シテ支那兵ノ武装ヲ解除シ支那官公署ニ日本國旗ヲ掲揚シタ時照治カ強迫ニ堪ヘヌ獨立宣言ヲ爲シタノモ眞ノ獨立ノ意思表示テハナカツタノテアル

例ノ張燕卿、謝介石及其ノ他多クノ滿洲國大官ハ滿洲人テナイ

張燕卿ハ河北ノ人テアル謝介石ハ臺灣人テアツテ九月十八日事變後日本人カ滿洲ニ進レテ來タ者テアル

滿洲人テナイ人間ヲ政府ノ首腦部ニ祭り上ケテ置イテ滿洲國ハ滿洲國人ノ民族自決主權ニ依ルモノナリト宣傳スルノハ笑止ノ至リテアル

日本意見書ハ幣原外相モ南陸相モ九月二十六日在滿日本武官ニ訓令ヲ發シテ滿洲新政權樹立絕對不干涉ヲ嚴命シタト述ヘテ居ルカ若シ斯ノ如キ訓令カ發セラレタトシテモ其ノ通り實行サレナカツタト云

465 0465



フ畢ハ本庄中將、土肥原大佐、林少佐、駒井、大橋諸氏カ滿洲國ノ  
創案者兼組織者デアツタ事ニ照シテ見テ照カテアル而モ林少佐カ馬  
占山ニ對シ攻撃中止ノ交換條件トシテ彼ニ下野ヲ勸メ張海麟ヲ黑龍  
江省長ニ任シ公安委員會ヲ組織セヨト要求シタノハ内政ノ干涉テナ  
クシテ何ソヤ

「リットン」報告書ニモ言フ如ク獨立ノ原動力多ルモノハ例ノ自治  
指導委員會デアルカ如何ニ日本意見書カ同委員會ハ一支那人ノ支配  
下ニアツテ關東軍ハ之ニ關係カナイト主張シテモ其ノ委員十三名中  
十二名ハ日本人デアリ支那人于沖漢ハ名義上ノ委員長ニ止リ實權ハ  
關東軍政治部長中野氏カ握リ氏ハ自治指導員養成所長ヲ兼務シ遼寧  
省三十二縣ニ各縣二名宛計六十四名ノ指導員ヲ派遣シシカモ其レハ  
全部日本人デアツタト云フ事實ヲ動かカス事ハ出來ナイ

結局滿洲國ハ滿洲人ノ民族自決主義ニ基クモノデアルト云フノハ神  
話ニ過キナイ 外交時報主幹半澤氏ハ昨年五月本庄將軍ノ招請ヲ滿  
洲視察ヲ了ヘ秘密「パンフレット」ヲ配布シタカソレニ依ルト「萬  
華カ關東軍ノ絶對的操縦ノ下ニ實行サレタシカモ其ノ時聯盟調査團  
カ來ルト云フノテ滿洲國ヲ大至急建設シテ之ヲ見セル必要カアツタ  
ソレヲ總テノ政治運動ハ日本軍ノ獨斷的指揮命令ノ下ニ進行サレタノ  
デアルト

聯盟調査團カ滿洲國反對ノ陳情書「二」ハ枚ヲ入手シタ件ニ付テ日  
本意見書ハ「今滿洲ノ人口ハ三千萬デアル故ニ總人口ノ僅カ二萬分  
ノ一ノミカ調査團ニ反對陳情ヲ提出シタトスレハ夫レハ却テ滿洲國  
ノタメ慶賀ニ堪ヘナイ所デアルト」ト氣焰ヲ擧ケテ恰モ反對陳情ヲシ  
ナカッタ人間ハ全部新國家ヲ歡迎シタカノ如ク論シテ居ルカ其ノ論

法ハ間違ツテ居ル

馬占山、丁超、李杜、蘇炳文等ノ指揮下ニ數千萬ノ支那正規兵及義勇兵カ日滿軍ト決戦ヲ試ミタノハ何ヲ物語ルカ現在ニ於テモ義勇軍ノ對日滿戰闘ハ續行サレテ居ル之ヲ見テモ日本ハ支那人カ日本ノ傀儡政府滿洲國ヲ歡迎シテ居ルト言ヘルテアラウ

例ノ外交時報ノ半澤氏ハ又昨年六月二十五日貴族院議員懇談會ノ席上テ述ヘタ演説ノ後テ「パンフレット」ニシテ配布シタカ其レニ依ルト滿洲國政府ト人民ノ間ニハ精神的又ハ形式的ノ融和カ無い滿洲人ハ新政府ヲ恰モ新日本政府カノ如ク考ヘ如何ニ日本人カ滿洲國ハ三千萬民衆ノ自由意思ノ結晶體ナリト説明シテモ其レカ滿洲人ノ心ニ入ラナイノテアル

「リットン」報告書ニ「本委員ハ各方面ヨリ蒐集シタ證據物件ニ依

リ日本カ滿洲國ノ建設ヲ補助シタト云フ具體的ノ事實ヲ發見シタカソレニ依ルト日本軍ノ存在並ニ日本文武官ノ策動カナカッタラ新國家ハ決シテ成立シ得ナカツタテアラウトノ感ヲ深メル

今新政府ノ首腦部ヲ見ルニ國務總理以下各大臣級ハ支那人テアルカ實權ハ日本人タル顯聞、總務長官カ握ツテ居ル

今後滿洲國カ健全ニ成長シテ行クカトウカカ問題テアルカ目下ノ如ク物情駭然トシテ反滿軍ノ逆撃カ何時迄モ續クトスレハ滿洲國ハ行財政何レノ政策モ實行ハ至難テアラウト書イテアル

實際今日滿洲ニ於ケル日本人ハ其ノ侵略政策ニ反對スル滿洲人ヲ馬蹄ノ下ニ蹂躪シテ恐怖政治ヲ斷行シツツアルノテアル支那人ノ僱書電報及新聞ハ悉ク檢閲ヲ受ケ聊カノ嫌疑テモアレハ支那人ヲ一網打盡ニ檢舉スル

日本ノ飛行機ハ防備ノナイ地方ヲ爆撃シ義勇軍ノ外良民迄モ虐殺スル昨年九月十六日日本軍ノ機關銃隊ハ撫順炭坑附近ノ三個所ノ支那村落ニ猛射ヲ浴セカケ支那人二千七百名ヲ屠殺シタ

現在ニ於テモ日本軍ハ爆撃機、タンク、大砲等ヲ以テ齊々哈爾西方ノ支那人ニ軍事行動ヲ続行シテ居ル所ノ如クシテ日本軍ハ中華民國ヨリ分離ヲ好マナイ滿洲ノ支那人ヲ迫害スルノデアル

日本軍ハ良民證明書ヲ持參シナイ支那人ニハ都會地ノ出入ヲ嚴禁シテ居ル滿洲ノ貿易ハ停滞シ到ル處匪賊蜂起シ白晝大都會テ人ヲ拉致シテ行ク其レテモ日本人ハ滿洲ハ平和ト繁榮ノ樂土デアルト宣傳シテ居ル

ハ 結論

前述ノ如ク日本ハ計策的軍事行動ヲ開始シテ支那ヨリ東三省ヲ奪取

470 ( 0470

シ之ニ自己ノ傀儡政府ヲ樹立シテ之カ東洋平和ノ基礎デアルトカ或ハ日支紛争ノ根本解決策デアルトカ随分勝手ナコトヲ云フカ日本カ其ノ侵略ニ依リ獲得シタ果實ヲ保持スル限り東洋ノ禍亂ハ絶ヘサルヘク延テハ國際關係上惡影響ヲ及シ世界平和ノ危機ヲ招來スルニ至ルデアラウ

仍テ支那政府ハ「リットン」報告書ヲ支持シ日本カ速カニ滿洲國獨立ヲ解消セシメ之ヲ正當ノ主權國タル支那ヘ返還センコトヲ要求スル次第デアル

471 ( 0471

極  
秘

1175

一九三三年四月二十日

中立國オブザーバーノ見タル日本軍上海侵略ノ狀況

國際聯盟規約第十五條第一項ニヨリ  
設置サレタル上海調査委員會報告書

南京外交部 情報局 發行

朝鮮總督官房 外編課 譯

朝鮮總督府

472

0473

1175

朝鮮總督府

472

0472

REEL No. A-0114

0536

アジア歴史資料センター

本委員會ハ米國總領事キー、カンニングハム氏ノ参加ノ下ニ會合シ國際聯盟ニ對シ二月十六日及三月四日附ヲ以テ前後二回ニ亘リ上海事件ニ關スル四報告書ヲ提出シタソレカ即チ本報告書デアアル

本報告書ハ中立國オブサーバーカ事實ヲ調査シ記述シタモノデアツテ支那ニ於ケル日本侵略ニ付テ知ラントスルモノニハ絶好ノ資料デアアル

外交部 情報局長

474 0475

朝鮮總督府

緒 言

一九三二年一月二十八日日本武裝隊カ上海攻撃ヲ開始シテ後間モナク二月ノ上旬頃國際聯盟事務總長ハ國際聯盟規約第十五條第一項ニ基キ上海及其ノ附近ニ起キタ敵對行動調査ノ爲現場委員會ヲ設置シ左ノ委員ヲ任命シタ

議長	伊太利代理公使	ジ、シアノ、テ、コルテラソ伯
英國總領事		ジョン、エフ、ブレナン卿
佛國總領事		エム、イ、コークリン
獨逸總領事		ルト、フォン、コレンバーク
スペイン國總領事		イ、ビー、フアレール
ノールウエー國總領事		エヌ、アール

以上

473 0474

朝鮮總督府